

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492601164	事業の開始年月日	平成29年11月1日
		指定年月日	平成29年11月1日
法人名	株式会社ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	相模原古淵グループホームそよ風		
所在地	(〒252-0344) 相模原市南区古淵1-1-21		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	令和3年10月4日	評価結果 市町村受理日	令和3年12月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナが長引き、ご利用者様、ご家族にはご不便をおかけしています。ご家族様や、社会とのつながりが出来ないことにより、心身ともにレベル低下に影響のないように、また外出できない事へのフォローとして、室内での体操や、レク、行事などは今まで以上に時間を取り、体力維持と、毎日の生活に楽しみを持っていただけるように配慮をしています。ご家族様とはテレビ電話の活用により、大変喜ばれています。又毎月のお便りで、ご本人の様子と、笑顔の写真をお送りしています。身体面では訪問診療、訪問看護と連携し、最後まで看られるグループホームをうたっています。最近も実際に看取りをこの施設でというご希望があり、ご家族様のご要望にお応え出来ました。このような時代ですが、身だしなみとご本人のご希望に合わせて、理美容には来ていただいています。今後もご利用者様、ご家族様のご希望に添えるように、きめ細かな対応をしてまいります。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和3年11月25日	評価機関 評価決定日	令和3年12月14日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**【事業所の優れている点】**  
 ◇事業所理念を全職員で共有  
 全職員でこの事業所の進むべき方向を話し合い、事業所理念として「利用者様の笑顔と職員の笑顔が共存できるセンター」を今年度新たに掲げることとした。職員が同じ方向を向いて心穏やかに笑顔で利用者に接することが、利用者が笑顔で過ごすことができることにつながるの思いを職員間で共有し、ケアを行っている。  
 ◇充実した研修内容  
 年間研修計画を作成し、感染症対策、職員倫理、ノーリフトケア、ハラスメントのほか、薬剤師やオムツの企業から派遣された講師によるオムツの取り扱い方や薬についての研修を行っている。身体拘束廃止委員会は3か月に1回、看取りの研修等、必要な研修は随時行い、日々のケアに生かしている。

**【事業所が工夫している点】**  
 ◇利用者の笑顔を引き出す工夫  
 アセスメントで把握した園芸や囲碁の趣味を楽しんでもらうために、ベランダや花壇で野菜や花を植えたり、職員が囲碁の勉強をして相手をつとめたりしている。職員の弾くギターで歌を歌ったり、料理が得意な職員と一緒に食事レクリエーションでピザを焼いたりして、利用者の笑顔を引き出している。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	相模原古淵GH
ユニット名	花ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に運営理念の掲示を行い、職員に周知と実践を行うように努めている。	・事業所理念として「利用者様の笑顔と職員の笑顔が共存できるセンター」を職員で新たに作成した。 ・職員が同じ方向を向いて心穏やかに笑顔で利用者に接することで利用者からも笑顔を引き出せるよう取り組んでる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、地域の一員として貢献手出来る機会もなく、地域交流はできないが、近隣の方々に気を掛けて頂き、季節の野菜など収穫されると届けていただき、ご利用者の楽しみが増している。	・自治会に加入し、コロナ禍前は祭りのときに駐車場に設置した屋台に近隣の人が集まったり、敬老の日の集会をした。 ・近隣住民から季節の野菜の差し入れがあり、利用者や職員が挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を、2ヶ月に1回意見交換をしながら理念の浸透を図っていたが、今年度はコロナの影響で実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2か月に一回運営推進会議を行い、行政、ご家族、地域の代表の方から貴重なご意見を頂きそれらを反映させることで、サービス向上に努めていましたが、コロナ禍のため施設内での意見交換が出来ていない。	・運営推進会議はコロナ禍のため、職員と利用者へのみの参加で開催し、報告書は行政と自治会長、オーナーに郵送している。 ・利用者からは食に関する要望があり、食事レクリエーションのメニューに反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の担当者と情報を交換し連携に努めている。現在はコロナ禍のため必要な時はリモートを活用する。	・市の担当者とは電話で情報交換をし、成年後見等の件で担当者が来訪することもある。 ・高齢者支援センターに訪問して連携を深め、グループホーム連絡会とも連絡を取り合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	原則行わない。法人全体で身体拘束について職員全員が理解できるように研修を行っている。定期的に内部研修を行うことで職員の意識を高めている。状況に応じて話し合いを持ち、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	・入社時研修や2か月に1回の内部研修でスピーチロックや身体拘束について学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・身体拘束廃止委員会は3か月に1回開催し、身体拘束等をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修等（現在参加していない）等により虐待の実態や現状を把握し、全体会議や研修報告にて周知に努めている。ミーティング時に見直しを行いケアの統一を図ることで虐待防止に取り組んでいる。	・入社時研修のほか内部研修で高齢者虐待防止法等を学び、ミーティングで虐待防止について話し合い、虐待のないケアを行っている。 ・ホーム長は、利用者へのケアに影響しないよう、職員の疲れやストレスに気を配っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は認知症実践者研修などにおいて制度について学習する機会を得ている。又研修後は報告書を回覧し周知に努める。施設内に成年後見制度に関する資料を設置している。現在成年後見人制度を利用されているので、理解がしやすい状況にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて料金や入退居条件、終末期についてや受診対応などご家族が納得していただけるよう十分にご説明している。また苦情やご質問がある時は、いつでも真摯に対応する事をお約束させて頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため、面会時や計画書の提示など、ご家族に現状をお話する機会が減少している。ユニット会議や全体会議で職員に周知を行い、運営推進会議にて外部にも報告している。	・利用者の意見は日常や運営推進会議で聞き、食に関する要望は食事レクリエーション等に反映している。 ・コロナ禍で家族からの面会希望には時間・回数の制限を設けているが、今後の情勢を見ながら改善していく。毎月レターを郵送している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議、ユニット会議を開いている。日常の対話の中でも意見の提案を聞く機会を設けている。いつでも意見が言える環境に努めて、風通しの良い組織づくりを目指している。	・毎月の会議や毎日のミーティングで、職員は日々のケアや事業所全体のことについての提案をしている。花壇整備についての提案があり、草刈りや水やりを利用者も一緒に行っている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の補充を行い、残業しない職場づくりを目指している。有給休暇の活用や、契約更新での適切な評価など働きやすい環境整備を行っている。職員と話をし、意見や提案をもらい反映している。	・職員間やユニット間の風通しを良くして、事業所全体の職場環境の改善を図っている。 ・日常での会話や随時行うセンター長との個人面談で、職員の希望や不満、悩み等を聞いている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修を受けている。段階に応じて、計画作成育成の為、実践者研修や管理者研修等を受ける機会も確保している。又、無資格者が働きながら資格を取る為のシステムもある。	・年間研修計画を立て、感染症対策、職員倫理のほか、専門家や薬剤師を講師にしてオムツの扱い方や薬の研修をしている。 ・実践者研修や無資格者の初任者研修等、職員が受けた研修には時間を確保するようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍のため他施設への研修や病院での勉強会などの研修の参加はできていない。施設内において、医療・看護の方など招き、スキルアップに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時に家族などが不安に思っている事や困っている事などを十分に伺うように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族から受けた相談(困っていること・心配なこと・不安なこと等)から必要なことを見極め提供出来る様心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から受けた相談(困っていること・心配なこと・不安なこと等)から必要なことを見極め提供出来る様心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が安心してサービスを利用してくださいよう本人のペースに合わせてサービスを行っている。又、場の雰囲気、他の入居者様との交流の機会作りもさりげなく行なっている。今できていることをなくさないようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と面会時や電話連絡等により情報交換を密にし、利用者を支えあう関係作りに努めている。現在、コロナ感染の危険性があるので面会ができない為、タブレットなどを使用し状態が分かるようにしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ感染の危険性があるため、染みの方々との交流が出来ない状況の中、面会が出来ないので、お手紙や電話など今迄の関係が続くようにご利用者の思いを大切にしている。	・コロナ禍で面会や外出ができないため、タブレット端末でのテレビ電話を活用して家族との交流を支援している。予約でいっぱいになるほど、利用者・家族に喜ばれている。 ・ぬり絵の絵葉書や年賀状の作成・投函を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現在コロナ感染の危険性があるため、染みの方々との交流が出来ない状況の中、面会が出来ないので、お手紙や電話など今迄の関係が続くようにご利用者の思いを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても近況を報告してくださったり、相談を受けたりし関わりを継続的に行っている方々もいる。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の様子を見ながら、暮らし方や希望を共に考え、ご本人の意向に沿うように努めている。	・アセスメントで把握した趣味の園芸や囲碁を楽しんでもらうために、野菜を植えたり職員が囲碁の勉強をして対応している。利用者の意向は申し送りノート等で共有している。 ・会話が困難な場合は、ジェスチャー等で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活を決める際は、今までの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り得るよう日常会話や家族からの情報等から把握に努め、其の都度、入居者の意見を聴き自己決定できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が今、何をしているか、どの位置にいるか、様子や状態を観察したことを話し合い、ご本人のもっていることから・状態を把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの思いやニーズを再度話し合い、定期的な検討会議だけでなく、3か月ごとにモニタリングを実地して、ケアプラン等に反映している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者や家族、医師の意見を反映して、3か月ごとのモニタリングをもとに、3か月ごとの検討会議で話し合い、3か月、6か月、1年の介護計画を作成している。</li> <li>・訪問医師と家族との面談に同席して、情報を共有している。</li> </ul>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤・夜勤帯にて、その日の様子、変化等個別に記録し、フロアスタッフ全員出勤時に読み確認している。月に1回ミーティングを行い、ご利用者一人一人の介護について話し合いをし介護の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画作成の際は、本人及び職員などに話を聞き、本人の希望や現状に必要な課題を計画に反映させている。またご家族や関係者の意見も取り入れる様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを定期的に入れ込んでいる。又消防とは救急救命講習会の開催・防火訓練等の指導を受けている。現在、現在コロナ感染の危険性があるため施設内は関係者以外入室はご遠慮していただいている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々のバイタル測定で、体調を把握し、処方された薬剤の安全な服薬をお手伝いしている。医療機関受診時には日々の状況を正確に報告し、適切な指示を仰いでいます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居前にかかりつけ医を継続するかを確認し、通院は家族にお願いしている。職員が代行したときは診察結果を家族と共有している。</li> <li>・内科医が月2回、歯科医が毎週、訪問看護師が毎週訪問し、健康管理をしている。</li> </ul>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設にて費用を捻出し、訪問看護のサービスを毎週定期的に行っている。協力病院の看護師に相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お互いの情報を提供し合い情報交換し退院前には病院でのムンテラに参加し施設での生活で不安のないようしている。で家族が対応出来ない部分においては、できることは施設で行う。例えば入退院の送迎など。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人ご家族の御意思を確認、尊重し重度化になる前に、ご家族、医療機関との連携を図り、チームでの支援体制を作り対応している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ターミナルケアマニュアルに沿い、重度化した場合の対応を契約時に家族に説明し、同意を得ている。</li> <li>・研修を実施してユニット全職員で看取る体制を整えている。</li> <li>・管理者は看取り前後の職員の不安に対し精神的ケアをしている。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内掲示やマニュアル等を設置して、緊急時に対応できるような体制にしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、非常食等を備蓄し、賞味期限の管理も定期的に実地しています。又防災訓練も年2回実施、地震火災等の災害時、確実に対応出来る様備えています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間想定を含め年2回避難訓練を実施し、消防署から2階からの避難の仕方の助言を得ている。</li> <li>・飲料水、レトルト食品、缶詰などの食料品、ヘルメット、懐中電灯、毛布などの防災用品を備蓄し、リスト化して管理している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しく温かみのある言葉遣いでゆっくり話をするように心がけています。入浴時や排泄時にはプライバシーに配慮した声掛け介助を行っています。個人情報の提出については、同意書を頂いています。	・職員は「接遇研修」やマニュアルで人格を尊重する言葉かけや支援の方法を学び、プライドを傷つけない言葉かけを実践している。 ・職員は排泄誘導は小声で行ったり、利用者が他人の部屋に無断で入らないよう気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食はパンを希望される方の対応。おやつ時等好みの飲み物を伺い対応。食事の際食べたい物へのメニュー変更や外食。又、外出時の服を決めていただいたりと自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在毎月訪問理美容が来てもらい、希望者には提供しています。また外出や、入浴の着替えの際などは、出来る限り本人と一緒に選んだり等、個人性を尊重しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニュー等や料理の温度、味付けを確認し、フルーツを添えるなどして工夫しています。たまには料理のメニューづくり、下膳配膳等、出来る事は一緒に行っています。	・おやつレクを月1回行い、ピザやたこ焼きの調理を楽しんでいる。 ・敬老会、クリスマス会、誕生日会には、献立やデザート希望を聞き、特別メニューやケーキを用意している。体調に応じておかゆやみそ汁を薄めるなど個別対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員も入居者と同じ食事を一緒に食べながら食べ方の混乱、食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行い、バランスの良い摂取に声かけしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア促す。介助が必要なご利用者は職員の介助にて施行。義歯の消毒も毎日行っている。又、訪問歯科による口腔ケアも希望できる。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は、ご入居者様一人一人の排泄の時間を把握し、適時お声かけ誘導しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の半数ほどが排泄自立で、排泄表を共有してパターンを把握し声かけ誘導している。夜間はポータブルトイレを使用する方もいる。</li> <li>・排泄の知識を外部講師から学び、利用者にあったパッドを活用するなど、排泄を支援している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシー保護に関する支援の留意点は、排泄・入浴ごとの各マニュアルに記載しています。わかりやすいようにプライバシー保護マニュアルとしてまとめることが期待されます。</li> </ul>
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムの把握と水分量のチェック、健康体操や屈伸、腹部マッサージ、食事には繊維質のある食事を提供している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則週2回の定期的な入浴を計画しているが、個々に応じた希望もお聞きして時間などを相談して決めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴は週2回を基本とし、要望により午後や毎日の入浴もできる。</li> <li>・脱衣場にエアコンを設置し、椅子を配置して安全対策をしている。</li> <li>・自分でできるところは洗ってもらい洗い、きれいな箇所を介助し、シャワー浴や清拭対応もしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々のペースで自由に過ごされています。夜間の睡眠パターンを配慮して夜眠れない方には、昼間運動をしたり、散歩に行ったり体を動かしてもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の処方箋は個人ファイルにはさみ、いつでも目が通せるようになっている。配薬のダブルチェックや声だし確認で誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人が楽しみごとや出番を見出せる様場面作りの支援をしている。〈TV番組・週刊誌・園芸・食器・掃除・洗濯物たたみ・植物の世話・新聞〉		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日や温暖な日等は職員が付き添い、ドライブをしています。ゴミ捨ての同行や、駐車場にて散歩など、出来る限り行うよう努めています。現在コロナ感染の危険性を重視し家族との連絡は電話としている。	・コロナ禍でもユニット外に出るよう心がけ、利用者は玄関先や屋上のテラスでの外気浴、草花の鑑賞、お茶飲みなどを行っている。ベランダの野菜に水やりをする利用者もいる。 ・買い物かてらのドライブやゴミ捨て同行で気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	天気のいい日や温暖な日当は職員が付き添い、ドライブをしています。ゴミ捨ての同行や、駐車場にて散歩など、出来る限り行うよう努めています。また外食にも出かけています。現在コロナ感染の危険性を重視し家族との連絡は電話としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯を持っている方はご自由に連絡されている。他の方もご家族らの指示がない限り希望があれば対応している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の場として、ご入居者様の心安らぐ空間づくりを心がけ、季節を感じられる装飾をして落ち着いた環境づくりを心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各フロアの特徴を出し、季節感のある生花・置物・利用者製作の貼り絵・行事写真などを飾っている。</li> <li>・リビングに数か所のテーブルとソファを置き、利用者がくつろげる工夫をしている。午後の休息までの間は居室の窓を開け換気している。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にて気の合う仲間と会話を楽しんだり、リビングのソファにて自由な時間を過ごして頂き居場所の確保ができています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れている家具などを持ち込まれ、ご自分の部屋として安心して暮らせるように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が慣れ親しんだダンス、仏壇、写真など好みのものを持ち込み、利用者と相談して使いやすいよう配置している。</li> <li>・エアコン、ベット、防災カーテン、テレビ台、クローゼットを備え付け、手すりを設置している。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プランター等にて、草花や野菜を育てて収穫の喜びを味わっている。広い駐車場を生かしてバーベキュー楽しんだり、掃除を共に行ったりしている。		

事業所名	相模原古淵GH
ユニット名	星ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に運営理念の掲示を行い、職員に周知と実践を行うように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、地域の一員として貢献手出来る機会もなく、地域交流はできないが、近隣の方々に気を掛けて頂き、季節の野菜など収穫されると届けていただき、ご利用者の楽しみが増している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を、2ヶ月に1回意見交換をしながら理念の浸透を図っていたが、今年度はコロナの影響で実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2か月に一回運営推進会議を行い、行政、ご家族、地域の代表の方から貴重なご意見を頂きそれらを反映させることで、サービス向上に努めていましたが、コロナ禍のため施設内での意見交換が出来ていない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の担当者と情報を交換し連携に努めている。現在はコロナ禍のため必要な時はリモートを活用する。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	原則行わない。法人全体で身体拘束について職員全員が理解できるように研修を行っている。定期的に内部研修を行うことで職員の意識を高めている。状況に応じて話し合いを持ち、身体拘束しないケアに取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修等（現在参加していない）等により虐待の実態や現状を把握し、全体会議や研修報告にて周知に努めている。ミーティング時に見直しを行いケアの統一を図ることで虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は認知症実践者研修などにおいて制度について学習する機会を得ている。又研修後は報告書を回覧し周知に努める。施設内に成年後見制度に関する資料を設置している。現在成年後見人制度を利用されているので、理解がしやすい状況にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて料金や入退居条件、終末期についてや受診対応などご家族が納得していただけるよう十分にご説明している。また苦情やご質問がある時は、いつでも真摯に対応する事をお約束させて頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため、面会時や計画書の提示など、ご家族に現状をお話する機会が減少している。ユニット会議や全体会議で職員に周知を行い、運営推進会議にて外部にも報告している。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議、ユニット会議を開 際している。日常の対話の中でも意 見の提案を聞く機会を設けている。 いつでも意見が言える環境に努め て、風通しの良い組織づくりを目指 している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務 状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいな ど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	人員の補充を行い、残業しない職場 づくりを目指している。有給休暇の 活用や、契約更新での適切な評価な ど働きやすい環境整備を行ってい る。職員と話をし、意見や提案をも らい反映している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際 と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の 確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	各種研修を受けている。段階に応じ て、計画作成育成の為、実践者研修 や管理者研修等を受ける機会も確保 している。又、無資格者が働きなが ら資格を取る為のシステムもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会 をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪 問等の活動を通じて、サービスの質を向上させて いく取組みをしている	コロナ禍のため他施設への研修や病 院での勉強会などの研修の参加はで きていない。施設内において、医 療・看護の方など招き、スキルアッ プに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困って いること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づくりに努 めている	入居前の面接時に家族などが不安に 思っている事や困っている事などを 十分に伺うように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族から受けた相談(困っていること・心配なこと・不安なこと等)から必要なことを見極め提供出来る様心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から受けた相談(困っていること・心配なこと・不安なこと等)から必要なことを見極め提供出来る様心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が安心してサービスを利用してくださいよう本人のペースに合わせてサービスを行っている。又、場の雰囲気、他の入居者様との交流の機会作りもさりげなく行なっている。今できていることをなくさないようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と面会時や電話連絡等により情報交換を密にし、利用者を支えあう関係作りに努めている。現在、コロナ感染の危険性があるので面会ができない為、タブレットなどを使用し状態が分かるようにしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	現在コロナ感染の危険性があるため、染みの方々との交流が出来ない状況の中、面会が出来ないので、お手紙や電話など今迄の関係が続くようにご利用者の思いを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現在コロナ感染の危険性があるため、染みの方々との交流が出来ない状況の中、面会が出来ないので、お手紙や電話など今迄の関係が続くようにご利用者の思いを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても近況を報告してくださったり、相談を受けたりし関わりを継続的に行っている方々もいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の様子を見ながら、暮らし方や希望を共に考え、ご本人の意向に沿うように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活を決める際は、今までの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り得るよう日常会話や家族からの情報等から把握に努め、其の都度、入居者の意見を聴き自己決定できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が今、何をしているか、どの位置にいるか、様子や状態を観察したことを話し合い、ご本人のもっているちから・状態を把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの思いやニーズを再度話し合い、定期的な検討会議だけでなく、3か月ごとにモニタリングを実地して、ケアプラン等に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤・夜勤帯にて、その日の様子、変化等個別に記録し、フロアスタッフ全員出勤時に読み確認している。月に1回ミーティングを行い、ご利用者一人一人の介護について話し合いをし介護の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画作成の際は、本人及び職員などに話を聞き、本人の希望や現状に必要な課題を計画に反映させている。またご家族や関係者の意見も取り入れる様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを定期的に受け入れている。又消防とは救急救命講習会の開催・防火訓練等の指導を受けている。現在、現在コロナ感染の危険性があるため施設内は関係者以外入室はご遠慮していただいている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々のバイタル測定で、体調を把握し、処方された薬剤の安全な服薬をお手伝いしている。医療機関受診時には日々の状況を正確に報告し、適切な指示を仰いでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設にて費用を捻出し、訪問看護のサービスを毎週定期的に行っている。協力病院の看護師に相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お互いの情報を提供し合い情報交換し退院前には病院でのムンテラに参加し施設での生活で不安のないようしている。で家族が対応出来ない部分においては、できることは施設で行う。例えば入退院の送迎など。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人ご家族の御意思を確認、尊重し重度化になる前に、ご家族、医療機関との連携を図り、チームでの支援体制を作り対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内掲示やマニュアル等を設置して、緊急時に対応できるような体制にしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、非常食等を備蓄し、賞味期限の管理も定期的に実地しています。又防災訓練も年2回実施、地震火災等の災害時、確実に対応出来る様備えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しく温かみのある言葉遣いでゆっくり話をするように心がけています。入浴時や排泄時にはプライバシーに配慮した声掛け介助を行っている。個人情報の提出については、同意書を頂いています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食はパンを希望される方の対応。おやつ時等好みの飲み物を伺い対応。食事の際食べたい物へのメニュー変更や外食。又、外出時の服を決めていただいたりと自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在毎月訪問理美容が来てもらい、希望者には提供しています。また外出や、入浴の着替えの際などは、出来る限り本人と一緒に選んだり等、個人性を尊重しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニュー等や料理の温度、味付けを確認し、フルーツを添えるなどして工夫しています。たまには料理のメニューづくり、下膳配膳等、出来る事は一緒に行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員も入居者と同じ食事を一緒に食べながら食べ方の混乱、食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行い、バランスの良い摂取に声かけしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア促す。介助が必要なご利用者は職員の介助にて施行。義歯の消毒も毎日行っている。又、訪問歯科による口腔ケアも希望できる。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は、ご入居者様一人一人の排泄の時間を把握し、適時お声かけ誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムの把握と水分量のチェック、健康体操や屈伸、腹部マッサージ、食事には繊維質のある食事を提供している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則週2回の定期的な入浴を計画しているが、個々に応じた希望もお聞きして時間などを相談して決めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々のペースで自由に過ごされています。夜間の睡眠パターンを配慮して夜眠れない方には、昼間運動をしたり、散歩に行ったり体を動かしてもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の処方箋は個人ファイルにはさみ、いつでも目が通せるようになっている。配薬のダブルチェックや声だし確認で誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人が楽しみごとや出番を見出せる様場面作りの支援をしている。〈TV番組・週刊誌・園芸・食器・掃除・洗濯物たたみ・植物の世話・新聞〉		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日や温暖な日等は職員が付き添い、ドライブをしています。ゴミ捨ての同行や、駐車場にて散歩など、出来る限り行うよう努めています。現在コロナ感染の危険性を重視し家族との連絡は電話としている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	天気のいい日や温暖な日当は職員が付き添い、ドライブをしています。ゴミ捨ての同行や、駐車場にて散歩など、出来る限り行うよう努めています。また外食にも出かけています。現在コロナ感染の危険性を重視し家族との連絡は電話としている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯を持っている方はご自由に連絡されている。他の方もご家族らの指示がない限り希望があれば対応している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の場として、ご入居者様の心安らぐ空間づくりを心がけ、季節を感じられる装飾をして落ち着いた環境づくりを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にて気の合う仲間と会話を楽しんだり、リビングのソファにて自由な時間を過ごして頂き居場所の確保ができています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れている家具などを持ち込まれ、ご自分の部屋として安心して暮らせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プランター等にて、草花や野菜を育てて収穫の喜びを味わっている。広い駐車場を生かしてバーベキュー楽しんだり、掃除を共に行ったりしている。		

事業所名	相模原古淵GH
ユニット名	月ユニット

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に運営理念の掲示を行い、職員に周知と実践を行うように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、地域の一員として貢献手出来る機会もなく、地域交流はできないが、近隣の方々に気を掛けて頂き、季節の野菜など収穫されると届けていただき、ご利用者の楽しみが増している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を、2ヶ月に1回意見交換をしながら理念の浸透を図っていたが、今年度はコロナの影響で実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2か月に一回運営推進会議を行い、行政、ご家族、地域の代表の方から貴重なご意見を頂きそれらを反映させることで、サービス向上に努めていましたが、コロナ禍のため施設内での意見交換が出来ていない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の担当者と情報を交換し連携に努めている。現在はコロナ禍のため必要な時はリモートを活用する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	原則行わない。法人全体で身体拘束について職員全員が理解できるように研修を行っている。定期的に内部研修を行うことで職員の意識を高めている。状況に応じて話し合いを持ち、身体拘束しないケアに取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修等（現在参加していない）等により虐待の実態や現状を把握し、全体会議や研修報告にて周知に努めている。ミーティング時に見直しを行いケアの統一を図ることで虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は認知症実践者研修などにおいて制度について学習する機会を得ている。又研修後は報告書を回覧し周知に努める。施設内に成年後見制度に関する資料を設置している。現在成年後見人制度を利用されているので、理解がしやすい状況にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて料金や入退居条件、終末期についてや受診対応などご家族が納得していただけるよう十分にご説明している。また苦情やご質問がある時は、いつでも真摯に対応する事をお約束させて頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため、面会時や計画書の提示など、ご家族に現状をお話する機会が減少している。ユニット会議や全体会議で職員に周知を行い、運営推進会議にて外部にも報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議、ユニット会議を開 際している。日常の対話の中でも意 見の提案を聞く機会を設けている。 いつでも意見が言える環境に努め て、風通しの良い組織づくりを目指 している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務 状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいな ど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	人員の補充を行い、残業しない職場 づくりを目指している。有給休暇の 活用や、契約更新での適切な評価な ど働きやすい環境整備を行ってい る。職員と話をし、意見や提案をも らい反映している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際 と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の 確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	各種研修を受けている。段階に応じ て、計画作成育成の為、実践者研修 や管理者研修等を受ける機会も確保 している。又、無資格者が働きなが ら資格を取る為のシステムもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会 をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪 問等の活動を通じて、サービスの質を向上させて いく取組みをしている	コロナ禍のため他施設への研修や病 院での勉強会などの研修の参加はで きていない。施設内において、医 療・看護の方など招き、スキルアッ プに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困って いること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づくりに努 めている	入居前の面接時に家族などが不安に 思っている事や困っている事などを 十分に伺うように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族から受けた相談(困っていること・心配なこと・不安なこと等)から必要なことを見極め提供出来る様心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から受けた相談(困っていること・心配なこと・不安なこと等)から必要なことを見極め提供出来る様心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が安心してサービスを利用してくださいよう本人のペースに合わせてサービスを行っている。又、場の雰囲気、他の入居者様との交流の機会作りもさりげなく行なっている。今できていることをなくさないようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と面会時や電話連絡等により情報交換を密にし、利用者を支えあう関係作りに努めている。現在、コロナ感染の危険性があるので面会ができない為、タブレットなどを使用し状態が分かるようにしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	現在コロナ感染の危険性があるため、染みの方々との交流が出来ない状況の中、面会が出来ないので、お手紙や電話など今迄の関係が続くようにご利用者の思いを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現在コロナ感染の危険性があるため、染みの方々との交流が出来ない状況の中、面会が出来ないので、お手紙や電話など今迄の関係が続くようにご利用者の思いを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても近況を報告してくださったり、相談を受けたりし関わりを継続的に行っている方々もいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の様子を見ながら、暮らし方や希望を共に考え、ご本人の意向に沿うように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活を決める際は、今までの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り得るよう日常会話や家族からの情報等から把握に努め、其の都度、入居者の意見を聴き自己決定できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が今、何をしているか、どの位置にいるか、様子や状態を観察したことを話し合い、ご本人のもっているちから・状態を把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの思いやニーズを再度話し合い、定期的な検討会議だけでなく、3か月ごとにモニタリングを実地して、ケアプラン等に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤・夜勤帯にて、その日の様子、変化等個別に記録し、フロアスタッフ全員出勤時に読み確認している。月に1回ミーティングを行い、ご利用者一人一人の介護について話し合いをし介護の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画作成の際は、本人及び職員などに話を聞き、本人の希望や現状に必要な課題を計画に反映させている。またご家族や関係者の意見も取り入れる様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを定期的に受け入れている。又消防とは救急救命講習会の開催・防火訓練等の指導を受けている。現在、現在コロナ感染の危険性があるため施設内は関係者以外入室はご遠慮していただいている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々のバイタル測定で、体調を把握し、処方された薬剤の安全な服薬をお手伝いしている。医療機関受診時には日々の状況を正確に報告し、適切な指示を仰いでいます。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設にて費用を捻出し、訪問看護のサービスを毎週定期的に行っている。協力病院の看護師に相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お互いの情報を提供し合い情報交換し退院前には病院でのムンテラに参加し施設での生活で不安のないようしている。で家族が対応出来ない部分においては、できることは施設で行う。例えば入退院の送迎など。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人ご家族の御意思を確認、尊重し重度化になる前に、ご家族、医療機関との連携を図り、チームでの支援体制を作り対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内掲示やマニュアル等を設置して、緊急時に対応できるような体制にしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、非常食等を備蓄し、賞味期限の管理も定期的に実地しています。又防災訓練も年2回実施、地震火災等の災害時、確実に対応出来る様備えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しく温かみのある言葉遣いでゆっくり話をするように心がけています。入浴時や排泄時にはプライバシーに配慮した声掛け介助を行っている。個人情報の提出については、同意書を頂いています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食はパンを希望される方の対応。おやつ時等好みの飲み物を伺い対応。食事の際食べたい物へのメニュー変更や外食。又、外出時の服を決めていただいたりと自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在毎月訪問理美容が来てもらい、希望者には提供しています。また外出や、入浴の着替えの際などは、出来る限り本人と一緒に選んだり等、個人性を尊重しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニュー等や料理の温度、味付けを確認し、フルーツを添えるなどして工夫しています。たまには料理のメニューづくり、下膳配膳等、出来る事は一緒に行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員も入居者と同じ食事を一緒に食べながら食べ方の混乱、食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行い、バランスの良い摂取に声かけしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア促す。介助が必要なご利用者は職員の介助にて施行。義歯の消毒も毎日行っている。又、訪問歯科による口腔ケアも希望できる。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は、ご入居者様一人一人の排泄の時間を把握し、適時お声かけ誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムの把握と水分量のチェック、健康体操や屈伸、腹部マッサージ、食事には繊維質のある食事を提供している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則週2回の定期的な入浴を計画しているが、個々に応じた希望もお聞きして時間などを相談して決めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々のペースで自由に過ごされています。夜間の睡眠パターンを配慮して夜眠れない方には、昼間運動をしたり、散歩に行ったり体を動かしてもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の処方箋は個人ファイルにはさみ、いつでも目が通せるようになっている。配薬のダブルチェックや声だし確認で誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人が楽しみごとや出番を見出せる様場面作りの支援をしている。〈TV番組・週刊誌・園芸・食器・掃除・洗濯物たたみ・植物の世話・新聞〉		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や温暖な日等は職員が付き添い、ドライブをしています。ゴミ捨ての同行や、駐車場にて散歩など、出来る限り行うよう努めています。現在コロナ感染の危険性を重視し家族との連絡は電話としている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	天気の良い日や温暖な日当は職員が付き添い、ドライブをしています。ゴミ捨ての同行や、駐車場にて散歩など、出来る限り行うよう努めています。また外食にも出かけています。現在コロナ感染の危険性を重視し家族との連絡は電話としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯を持っている方はご自由に連絡されている。他の方もご家族らの指示がない限り希望があれば対応している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の場として、ご入居者様の心安らぐ空間づくりを心がけ、季節を感じられる装飾をして落ち着いた環境づくりを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にて気の合う仲間と会話を楽しんだり、リビングのソファにて自由な時間を過ごして頂き居場所の確保ができています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れている家具などを持ち込まれ、ご自分の部屋として安心して暮らせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プランター等にて、草花や野菜を育てて収穫の喜びを味わっている。広い駐車場を生かしてバーベキュー楽しんだり、掃除を共に行ったりしている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 相模原古淵  
グループホームそよ風

作成日 令和3 年12月20日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	16	重度化や看取りの経験を活かし、未経験の職員への研修を継続的に実施し、スキルアップを図ることが期待されます。	看取りや重度化した際の対応のスキルアップに努める。	年間計画に看取り・重度化した際の対応の研修を盛り込み、職員すべてが周知し、対応できる体制を作る。また、訪問診療、訪問看護師と連携を図りアドバイス等を頂く。	2022/4/1～ 2023/3/31
2	17	災害時（特に夜間）に、地元自治会・近隣住民の協力や消防団の支援を受けられるよう更なる協力体制の構築が望まれます。	地域からの支援体制を構築する。	地域で行う防災訓練等に参加し協力体制を取り、運営推進会議等で地域への協力依頼を発信する。	2022/4/1～ 2023/3/31
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。